

第6回「第2のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議  
議事概要

1. 日程

令和5年10月11日（水）10:00～12:00

2. 場所

オンライン

3. 有識者（五十音順）

井口委員、坂倉委員、佐藤委員、沢登委員、深谷委員、中村委員、矢ヶ崎座長

4. 議題

- (1) モデル実証事業の概要説明
- (2) 採択18地域取組状況説明・質疑応答
- (3) アンケート案審議
  - ・概要及びアンケート設問説明
  - ・意見交換、質疑応答
- (4) 今後のスケジュール

5. 議事概要

- 採択18地域のモデル実証事業について、採択事業者より事業取組の他、①反復継続した来訪を促すための取組、②中長期的な自立化に向けた方向性についての2点について資料に沿って説明。その後、委員による質疑及び意見交換。
- 採択18地域のモニターツアー参加者向けのアンケート案について協議。

---

(2) 採択18地域取組状況説明・質疑応答

(福島県福島市)

幼虫編、繭編といった違った切り口で養蚕技術を学ぶことができる中長期的なプランを造成することで、多頻度来訪を促進する。また資金については、道の駅地域振興支援金の活用や収益性の高い団体向けプランの造成を行うことで調達する。

(福島県葛尾村)

空き家のDIYワークショップを通じて地域に何かを残す、地域と一緒に汗を流すことで愛着を持ってもらい、再来訪を促す。また、地域へお手伝いをすることで、無料で宿泊ができる仕組を構築する。

(埼玉県秩父市)

ファシリテーターと連携して、旅マエ・旅ナカ・旅アトを一連とした地域文化である祭りの探求学習プログラムを造成する。祭りを扱った探求学習プログラムをセールスツールとして、学生向けに提供していく。

(埼玉県小川町)

林業を通じた自然体験と企画乗車券を合わせたツアーの造成や地域通貨券の発行を行い、次回の来訪を促す仕組みを構築する。今後は、さらなるコンテンツの磨き上げを行い、来年度以降の事業継続を目指す。

(神奈川県大井町)

よしもと住みます芸人と自然体験活動指導者を活用して、重層的なコンシェルジュの仕組みを構築する。また、竹アカデミーの会費有料化により、運営費財源を確保する。来訪者が大井町の担い手として活動できる場を作り、移住定住の促進にもつなげる。

(新潟県南魚沼市ほか)

地域と来訪者の関係性を継続させるために、地域のお手伝いを通して来訪者が継続して楽しみを見出せる仕組みを構築する。また来訪者の負担を軽減するために、人件費や施設管理のコストを削減できるさかとケモデルで少しずつ事例を重ねて成功モデルを構築する。

(長野県長和町)

園児を持つ家族を対象に保育園留学×ワーケーションで、中長期的な滞在をすることで旅行では味わえない地域の方との交流を通じた体験をすることで何度も行きたくなる形を作り上げていく。

(岐阜県下呂市)

チルアウトをテーマとしたプログラムを造成し、LINEを活用した情報提供も行うことで、地域住民との接点を強化し再来訪へとつなげる。チルスポットに来訪することで再来訪につながる特典を付与する仕組みを構築し、継続的なファンを獲得して再来訪を促す。

(滋賀県栗東市)

学生コンシェルジュに地域イベントの運営側として地域と来訪者の橋渡しになってもらうことで、来訪者が地域を訪れる際の障壁を減らす。また、地域会員券(年間パスポート)を発行し、様々な特典を付与することで、再来訪を促す。

(京都府南丹市)

教育機関の研修等のために美山町を訪れる学生を対象に、地域の普段の生活をコンテンツ化し、来訪者と地域住民が共に日本の原風景を守れるような仕組みを構築する。

(兵庫県丹波篠山市)

若手の陶芸家で構成された関係コンシェルジュが地域を案内することで、地域と来訪者の関係性を作っていくことで再来訪へとつなげる。来年度以降は、宿泊と体験と食が一体となったパッケージツアーを継続販売する。

(兵庫県新温泉町)

地域の困りごとを解決するプログラムの中で地域のコンシェルジュと関わる仕組みを造成し、地域や来訪者同士の繋がりをつくる。また、一次交通・二次交通のサブスクリプションを提供することで、地域に来る際のアシを確保する。

(奈良県吉野町)

企業研修プログラムを通じて吉野ファンの獲得を行い、桜守として保全活動を行うことで地域と交流をする。その方々を「サポーター」として認定し、情報提供を行うことで、再来訪へとつなげる。

(島根県江津市・大田市)

新たな生業づくりに挑戦し、地域の暮らし、文化、人に触れる滞在プログラム「江の川なりわいブートキャンプ」を実施し、DAO型プロジェクトを運用することで、地域住民と来訪者の交流を促すとともに、地域の新たな担い手を獲得する。

(山口県下関市)

地元猟友会との接点を持つべく、LINEのコミュニティを展開し、定期的にリアルな情報交換を行うことで、再来訪へつなげる。来年度以降は、猟友会や地元宿泊業者が中心になって自走できるよう支援していく。

(香川県琴平町)

社会人や学生をターゲットに、関わりしろとなる「役割」「仕事」を提供する流れを作り、琴平の方に会いに行くことで再来訪を促す。旅アトでは、地域との関係性に応じて異なる媒体を活用することで、継続的なつながりをつくる。

(愛媛県西条市ほか)

地域の人が来訪者に地域の生業に焦点を当てた現地体験を提供することで、地域への愛着を醸成し、反復来訪を促す。デジ田の交付金を活用して、ウェブ上で地域と来訪者のマッチングを行っていく仕組みを構築することで、来年度以降事業の継続をはかる。

(沖縄県国頭村ほか)

旅ナカにおける産業・地域貢献×コミュニティ連携強化により、第三の居場所を実感してもらおうプログラムを提供することで、再来訪動機を醸成する。また、やんばるSHINKAにより、地域と来訪者の繋がりを強化する。

○ 委員からの主な意見は以下のとおり。

- ✓ 大事なポイントとしては、モニターツアーを起点とするものの、そこからどのように脱却し、その後自発的に「何度も通う」ことができる旅をつくっていくかである。例えば、葛尾村の「空き家を活用したDIY」、大井町の「マイ竹林を育てる体験」、雪国観光圏の「さかとけという地域に役割のコトと場を与える仕組」などにより、来訪者がどう何度も地域に自発的に来訪するかを意識して事業をやっていくとよりよい効果が検証できる。
- ✓ 地域と来訪者をつなげるハブとなる人を地域にどのように配置するかが重要なポイントとなる。
- ✓ 初年度と比べると、来訪者に役割を与えることが今年度のポイントになっていると感じる。単にお客様としてではなく、地域の一員として役割を与えて、関係人口を構築していくというプロセスが見られる。
- ✓ 地域に帰る旅は、場⇒人⇒コトの順番で大事な要素となっている。場づくり、人づくり、場と人がそろって「コト」を行うような旅を造成することができれば、従来の旅行商品との明確な差別化につながるのではないかと。
- ✓ 今年度の実証事業の多くは、地域の特性を活かして多様なアプローチをしている。ずっと何かを新しく仕掛けていくというよりも、その地域に帰ってきたいという一定の

人、それを受け入れる地元というネットワークやコミュニティがどんどん成長していくと、絶えず様々なプレイヤーが出たり入ったりする循環システムになると考えられる。

- ✓ コミュニティマネジメントの観点から、どのように来訪者や地域住民が活躍する場やコミュニティをつくるかという点に着目すると、非常に可能性を感じる事業である。いかに地域の人たちと緩やかなつながり・良い関係性を構築していくかがポイントである。
- ✓ 観光庁からの補助金が終わると事業も終了ということにならないように、継続して事業を行ってもらいたい。そのためには、自分たちの地域をどういう地域にしたいかというゴール（地場産業や祭りの継承、子育てのしやすい街等）を定め、それに向かっていくと良い循環になるのではないかな。
- ✓ 関係人口となってもらうために、地域側が何を提供するのか（第3の場を提供、癒しを提供等）という地域がなりたい姿を事前に議論できると、うまく循環するのではないかな。
- ✓ 来訪者が興味関心を持ち、また来たいと思えるためには、コンテンツをプロセス毎に分け、プロセス同士が繋がっていることが重要である。
- ✓ 来訪者が自発的に動きたくなるような仕掛けやコンシェルジュを起点とした関係作りをプロセスの中に取り込むことが大切である。
- ✓ 入口となるモニターツアーでは、どのような体験をすることで、地域に愛着が沸き、また来訪したくなるような関係性をつくるのができるのかを検証することが必要である。また、再現性が高く、地域の多様な立場の人との関係性が生まれていき、結果として地域が我がことのように感じるというプロセス自体の知見を得ることも大事である。
- ✓ この事業を通じて、共有できる要素が増えていくことが昨年度からモニターツアーをやってきた価値になると感じた。
- ✓ 地域へ再来訪をどう促すかが最大の課題ではないかな。
- ✓ 琴平町の旅アトの再来訪の取組でLINEを使うことや、ソラヤマいしづちでのC to Cのプラットフォームを使うことなど、旅ナカから旅アトにおいて、気持ちを繋げていくための仕組み作りが重要ではないかな。
- ✓ 旅ナカのコンテンツや一方通行の情報だけでは再来訪に繋がらず、双方向での繋がりが大事ではないかな。そのために、地域と人、または人と人を繋げるコンシェルジュの役割が非常に大事である。
- ✓ 第2のふるさと事業を継続的に進めていくためには、来訪者との関係性を変えることが重要ではないかな。今までは、来訪者が地域にお金を支払い、サービスを受けていたが、これからは来訪者が地域に対して何か価値を提供するなど、今までと関係性を変えることで、新たな市場が見えてくるのではないかな。それにより、地域の課題解決にもつながり、新しい出会いにもつながる。地域と来訪者お互いをWIN-WINな関係にするという意識が継続的な事業を行う上で重要である。

- ✓ 本事業に可能性を感じる部分として、革新的な要素を各地域が提供するような答えがない領域（ラボ的な取組）が挙げられる。来訪者が愛着の湧く要素が何かを検証すべき。また、自発的なサイクルとなるためには、場・人・コトはあくまで仮説であり、本当は何が重要であるか検証すべき。さらに、関係人口に深化させる要素として、コミュニティ化することが重要であるが、他にどのような要素があるか検証すべき。
  - ✓ 18地域の取組にはパターンがあり、地域に役割を持って、地域(コミュニティ)に入っていく役割系、自分を見つめ直す(癒し)ような従来の観光に近い観光リピーター滞在客系、地域の資源を学びとして活用した学び系、子供のための学び系という形で分けることができるのではないか。最終的には、地域と来訪者の関係性を今までと違う形で築いていき、コミュニティマネジメントのような観点から議論していくことになると考える。
- 

### (3) アンケート案審議

○ 委員の主な意見は以下のとおり。

- ✓ どういうところにピンと来て再来訪したいと思えたか突き止めることができるような設問とするとよい。再来訪意向に関して、段階を特定できるように聞くべきである。
- ✓ 「訪れてよし」の観点だけでなく「住んでよし」の観点からも聞けるような形が良いと考える。地域の「住んでよし」を感じたかどうかを聞く設問を入れることができないか。

以上